

資料

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録(2)

— 道南・道央編 —

高橋 克依

前回(『北星学園大学文学部 北星論集』第45巻 第2号掲載)に引き続き、第二次大戦前までの北海道における演劇活動の記録をまとめた。調査の対象は渡島、桧山、後志、胆振、石狩、日高、空知とし、前回同様、各市町村の地芝居および地域の劇場開設状況等に

限定している。

なお、全く記録がないもの、あるいは資料的価値がないと判断されるものについては、「資料なし」と記載した。また、呼称等については、資料に使用されているものをできるだけ尊重した。

○渡島支庁	
函館市	「函館市史 通説編第3巻」(H 9) 709-716: 明治初年から芝居小屋、寄席が増設されるようになり、「興行認可地」が設定されたことなど。大正期には、東京歌舞伎の公演などもあったが、観客動員の中心は映画に移っていったことなど(「函館大正史郷土新聞資料集」など多くの資料に言及)。「函館市史 都市・住文化編」(H 7) 210-212: 「活動」の登場前後で、函館の劇場街が変遷をとげたことなど。
戸井町 (H 16.12.01 函館市へ)	資料なし
恵山町 (H 16.12.01 函館市へ)	資料なし
榎法華村 (H 16.12.01 函館市へ)	資料なし
南茅部町 (H 16.12.01 函館市へ)	資料なし
上磯町 (H 18.02.01 北斗市へ)	「上磯町史 下巻」(H 9) 1338: S 8年上磯素劇会が発会し、同年7月までに3回の発表会を上磯座でおこなったことなど。
大野町 (H 18.02.01 北斗市へ)	資料なし

松前町	資料なし
福島町	資料なし
知内町	「知内町史」(S 61)754-755:映画と並行ないしはそれ以前から、旅芸人が青年会館や旅館を借りて民謡、手踊り、即興芝居等を見せたり、青年団による民謡、芝居などが農閑期や部落の催しの際におこなわれたことなど。
木古内町	資料なし
七飯町	資料なし
鹿部町	資料なし
森町	「森町史」(S 55)1167-1168:幕末の頃から見世物が村々でおこなわれるようになり、芸人たちが頻繁に来村し、大きな家や宿屋、屋外などで興行したこと。M 20年代になって、芝居小屋が建てられるようになったこと。
砂原町 (H 17.04.01 森町へ)	資料なし
八雲町	「八雲町史 下巻」(S 59)626:祭りの余興として旅回りの役者に浪曲や芝居を演じさせたり、村の青年団が舞踊や素人芝居をおこなったこと。629-630:明治末に下町の遊楽部橋付近に「八雲座」が建てられ、また大正初期に市街地に遊楽座が建てられたこと。部落においては、T 8年に浜通りの角谷旅館が地方巡業の興行師を招いて映画、浪曲、芝居を見せていたことなど。
熊石町 (H 17.10.01 八雲町へ)	資料なし
長万部町	資料なし

○桧山支庁	
江差町	「江差町史 第六巻通説二」(S 58)1053-1057:19世紀から芸人が多く入り込み、明治期に東京歌舞伎、芝居、軽業等が渡来したことなど。
上ノ国町	資料なし
厚沢部町	資料なし
乙部町	資料なし
大成町 (H 17.09.01 せたな町へ)	資料なし
瀬棚町 (H 17.09.01 せたな町へ)	「瀬棚町史」(H 3)1469-1471:M 38年に開設された池田座をはじめ桜木座、瀬棚座のことなど。M 40年ごろ、真駒内(北檜山)を本拠に地方まわりをしていた歌舞伎一座の指導を受けて、青年の間に「若葉会」がつくられ、年一回劇場を借りて公演していたことなど。
北檜山町 (H 17.09.01 せたな町へ)	資料なし
奥尻町	資料なし
今金町	「今金町史 上巻」(H 3)671:M 40年、市街の小屋で月に1~2回映画、芝居が上演されていたことなど。S 5年、常設館として「利別座」が開設され、映画、浪曲、演芸、芝居などを上演していたことなど。

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録(2)

○後志支庁	
小樽市	「小樽市史 第一巻」(S 33)767-768：明治時代の星川座，末広座，住吉座のことなど。「小樽市史 第三巻」(S 56)431-434：上述の内容に続けて，M 25年に手宮座，26年に稲穂座が開業したことなど。またこれらの劇場では旅回りの役者による芝居，娘義太夫，講釈，祭文（ちょんがれ）などが上演されたことなど。明治末から大正始めにかけて，連鎖劇が流行したこと，また大正期には，尾上梅幸ら中央の歌舞伎俳優らが来道したことや，小樽高等商業学校の学生による外語劇が公演されたことなど。
島牧村	資料なし
寿都町	資料なし
黒松内町	「黒松内町史 上巻」(H 62)795-796：T 4年に黒松内劇場が開設され，芝居や無声映画が上演される。白井川市街の興農館でも，地域の人々の演劇などをおこなっていたこと（時期不明）。
蘭越町	「新蘭越町史」(H 11)411-413：S 2年に中目名に柳沼茂を主宰とし，芝居の同好会「愛友会」が結成され，倉庫を会場として活動写真や芝居の上演をしたこと。また村祭りの日などに若水夢路と名のり芝居をおこなったこと。T 14年，目名（名駒町）に目名演芸部ができ，芝居を上演したことなど。
ニセコ町	「ニセコ町史」(S 57)697-698：M 35年，狩太劇団ができ，劇場開きに地元の若者たちの狂言が上演されたこと。M 45年頃，富士見座ができ，壮士芝居や歌舞伎芝居が多く演じられたことなど。
真狩村	資料なし
留寿都村	「留寿都村百年史」(H 13)823-824：開拓がはじめられたころ，愛媛からの移住者たちによって演劇，歌舞伎がおこなわれるようになり，知来別の神社（金比羅さん）の祭典で上演されたことなど（喜楽座）。
喜茂別町	「喜茂別町史」(S 44)202：明治の末期に発足した上尻別青年団が亜麻倉庫を会場として素人演芸会をおこなったことなど。「新喜茂別町史 下巻」(H 9)336：前掲書とほぼ同じ内容。445：大正末期に旅芸人一座が興行する小屋が喜茂別神社近くにできたこと。
京極町	「京極町史」(S 52)165：M 39年に大国座が開設されたことなど。272-274：T 11年に新富座が開設され，こけら落としに東京歌舞伎市川中車の一行が来演したことなど。
倶知安町	「倶知安町百年史 上巻」(H 5)658-663：M 28年基線西六号線の笹小屋で最初の芝居興行がおこなわれたこと。M 36年，旅店を兼ねた三浦座が開設されたこと（「倶知安町史」や「小樽新聞」の内容に言及）。M 42年に開設された山金座の興行記録を「倶知安新聞」からひろう。
共和町	資料なし
岩内町	資料なし
泊村	資料なし
神恵内村	資料なし
積丹町	資料なし
古平町	「古平町史 第二巻」(S 52)919-922：M 30年代後半，新地町に古盛座が開設されたこと。39年に歌舞伎劇団が組織され，年に何回か発表していたこと。T 13年に新派の素人劇団が組織されたことなど。

仁木町	「仁木町史」(S 43)418-420：M 36年頃、瀬尾座。その焼失後、大正初めに共進倶楽部ができ、青年団活動の拠点となり、活動写真や芝居が上演されたことなど。四国出身者が多く、芝居や浄瑠璃を好む者が多かったことなど。「新仁木町史」(H 12)723-724：母村徳島の人形浄瑠璃につらなる義太夫がさかんで、S 8年頃愛好者たちによる義盛会がつくられ、高い評価を得たことなど（「郷土誌」を引用）。
余市町	資料なし
赤井川村	資料なし

○胆振支庁	
室蘭市	「新室蘭市史 第二巻」(S 58)296-297：M 44年、日本製鋼所により、従業員や家族の定着をはかるため共楽座が開設され、東京以北随一を誇っていたことなど。「新室蘭市史 第四巻」(S 62)819-822：M 6年頃の、旅館や説教所の広間を借りての旅回り芸人たちによる興行から、即席舞台による興行、鶴山座をはじめとする劇場の動向（「古老昔日談」河野常吉、「思い出の譜」の引用有り）。
苫小牧市	「苫小牧市史 下巻」(S 51)686-690：M 41年、席亭がつくられ、王子製紙工場の人々や町の人々の娯楽の場となったこと。T 4年、王子製紙の厚生施設のひとつとして王子娯楽場がつくられ、一流の歌舞伎役者や能役者が招かれていたこと。M 43年常盤座、T 8年に大和座が開設されたことなど。
登別市	資料なし
伊達市	資料なし
大滝村 (H 18.03.01 伊達市へ)	資料なし
豊浦町	「続・豊浦町史 豊浦の歴史あれこれ——昭和編——」(H 3)168-171：T 4年からS 10年まで、今の新山梨地区で山梨県出身者による新山梨歌舞伎がおこなわれていたこと（北海道開拓記念館の岡田資料とS 49年9月1日付「豊浦の文化」掲載の赤木三兵の文を参考に）。T 3年、弁辺村字貫気別（現在の和和）において「美友団」という演劇グループがつくられたことなど。
虻田町 (H 18.03.27 洞爺湖町へ)	資料なし
洞爺村 (H 18.03.27 洞爺湖町へ)	資料なし
壮瞥町	資料なし
白老町	資料なし
早来町 (H 18.03.27 安平町へ)	「早来町史」(S 48)1456-1457：明治末期に早来館が開設され、旅芸人の芝居、演芸などがおこなわれたことなど。
追分町 (H 18.03.27 安平町へ)	「追分町史」(S 61)1190：追分座でT 2年冷害凶作のおり、青年会が窮民救済の慈善演芸会を開催したことなど。
厚真町	資料なし

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録(2)

鶴川町 (H 18.03.27 むかわ町へ)	資料なし
穂別町 (H 18.03.27 むかわ町へ)	「新穂別町史」(H 3)1529-1531：S 4 年，市街に穂別村記念館ができ，旅芸人が支那手品，芝居などをおこなったこと。部落では青年団等が中心となって，芝居や演芸会が年数回開催されたことなど(「翁媪八十代の踰邁を語る — 佐久間忠『旅芸人』」からの引用あり)。

○石狩支庁	
札幌市	「新札幌市史 第三巻通史三」(H 6)492-493：M 35 年，春祭りの余興で，大沼三四郎を師として篠路歌舞伎がはじめられたこと。M 44 年，舞台となる烈々布倶楽部が烈々布神社の境内に落成したことなど(「篠路烈々布百年」，「北海タイムス」などの内容にも言及)。781-788：M 30 年代の市内における興行を批評した新聞記事の紹介。40 年代から大正にかけて中央の劇団等が多く来道するようになったことや，新聞小説を脚色した上演が多くおこなわれたことなど。T 2 年，東北帝国大学農科大学で，外語劇がはじめられたことなど。前出の篠路歌舞伎以外に，M 30 年，新琴似神社境内などで歌舞伎芝居(新琴似歌舞伎)がはじめられたこと。M 43 年にその常設小屋若松館ができたことなど。 「新札幌市史 第四巻通史四」(H 9)1010-1017：「北海道庁統計書」をもちいて，札幌警察署管内の演劇および諸興行の上演延べ日数の分析など。篠路歌舞伎が S 9 年に花岡義信(大沼三四郎)の引退興行を最後に消滅したことなど。大正から昭和にかけての新劇の展開について。T 11 年に札幌劇協会が設立されたことなど。
江別市	「新江別市史 本編」(H 17)196-197：明治 20～30 年頃千歳座が開設されたこと。268：T 10 年，富士見座が開設されたこと。
千歳市	資料なし
恵庭市	資料なし
北広島市	「広島町史」(S 47)604：「広島村史」を引用。M 27 年以來，民家や露天で芝居をおこなったこと。神社祭典の余興で青年たちが芝居をしたこと。M 42 年広盛館が開設されたことなど。
石狩市	「石狩町誌 下巻」(H 9)381：明治 30 年，「北の亭」，「高田座」が賑わいを見せ，浪花節，芝居などがおこなわれていたこと。S 5，6 年ごろ「北の亭」は「石狩座」として復活し，41 年まで映画，芝居の上演をしたり地元青年団の演芸会場となっていたこと。T 7 年～S 6 年までの石狩川生振水路工事の盛期に治水事務所の「振興クラブ」が「生振座」と呼ばれて，作業員の娯楽場として素人芝居や映画が上演されていたことなど。
当別町	資料なし
新篠津村	「新篠津村百年史 上巻」(H 8)479-480：青年たちが農作業終了後に稽古にはげみ，村の演芸会で成果を披露したこと。内容は勧善懲悪をテーマにしたものが多かったことなど(時期不明)。「浄土寺の今と昔と」の内容に触れた部分あり。
厚田村 (H 17.10.01 石狩市へ)	資料なし
浜益村 (H 17.10.01 石狩市へ)	「浜益村史」(S 55)1071-1072：明治期に鯉漁場で旅回り興行がおこなわれていたこと，番屋を借り受け各地で 4 日程度の興行をしたことなど。

○日高支庁	
日高町	資料なし
門別町 (H 18.03.01 日高町へ)	資料なし
平取町	資料なし
新冠町	資料なし
静内町 (H 18.03.31 新ひだか町へ)	資料なし
三石町 (H 18.03.31 新ひだか町へ)	資料なし
浦河町	資料なし
様似町	資料なし
えりも町	資料なし

○空知支庁	
夕張市	「夕張市史 下巻」(S 56)685：炭界の好況により労働者が増え、M 42年に登座、M 44年に大黒座が開設され、演劇、舞踊、浪曲、映画などが催されたこと。
岩見沢市	「岩見沢市史」(S 38)1586-1589：大国館、大正座、松竹座と改名してきた日本劇場のことなど(開設年は不明)。
北村 (H 18.03.27 岩見沢市へ)	資料なし
栗沢町 (H 18.03.27 岩見沢市へ)	「栗沢町史」(S 39)567：M 36～7年頃栗沢座、T 初年に万字座、T 7年美流渡座がそれぞれ開設されたこと。582：前記の内容について開設者などより詳しい情報。「栗沢町史 上巻」(H 5)665：青年団、処女会に演劇への取り組みがあったこと(時期不明)。668-669：前掲書とほぼ同じ内容。
美唄市	「美唄市史」(S 45)888：S 8年、芸能愛好の集団が常盤台にでき、人情劇と民謡を出し物としていたことなど。891-893：明治42年、美唄座。大正になって三咲座、福井座、互楽座などが開設されたこと。「美唄市百年史 通史編」(H 3)636-638：M 30年代から、盆や祭典行事などで興行がおこなわれたことなど。常設館のない農村では神社境内を劇場としており、光珠内地域では明治期から沼貝神社境内に舞台が常設されていたことなど(「北海道毎日新聞」,「思い出の数々」,「中小屋部落開拓史」などを参照)。
芦別市	「新芦別市史 第一巻」(H 6)474-475：T 4年、栄楽館が開設され、開館興行として歌舞伎が催されるなど、演芸、活動写真、集会などに利用されたことなど。新聞の出典明示。
赤平市	「赤平市史(下)」(H 13)385：S 10年ごろ、青年会館で映画や芝居が年に数回上演されていたこと。S 13年、映画劇場「赤平座」が開設され、東京から歌舞伎一座を呼んでこけら落としをおこなったこと。過去の証言や記録が数点。
三笠市	「新三笠市史 通史編」(H 5)630-632：幌内・三笠地区、新幌内地区、幾春別・奔別・弥生地区それぞれにあった数々の劇場を一覧表にして紹介。
滝川市	「滝川市史 下巻」(S 56)810-814：M 26年に滝川座、35年に蛭子座、T 2年に遊楽館、T 12年に滝川劇場がそれぞれ開設されたことなど。

市町村史に見る北海道の演劇活動の記録(2)

砂川市	「私たちの砂川市史 上巻」(1991)324：常設の小屋ができる以前は、祭文、浪曲、芝居などの会場として寺が利用されていたこと。また個人宅で阿波芝居、砂利場飯場で冬に浪花節や芝居を興行したことも。M 33 年ごろから旭座、共盛座、富士亭などができる。41 年に開設された春日亭では青年団の芝居も上演されたことなど。
歌志内市	「歌志内市史」(S 39) 1131-1134：M 30 年以前は歌志内炭山の各飯場において、坑夫らの慰安のため旅芸人による浪花節等がおこなわれていたこと。M 30 年頃、北炭歌志内炭山による歌志内小学校校庭への小屋掛けで、歌舞伎役者の旅芸人による一般住民への公開。M 30 年頃より、一ノ座、宝座、沢盛座、共盛座、寿座、都座、大正座などが開設されたことなど。 「新歌志内市史」(H 6) 1788-1796：前掲書とほぼ同じ内容ながら、新聞記事の引用多数。
深川市	資料なし
南幌町	資料なし
奈井江町	資料なし
上砂川町	「上砂川町史」(S 34) 253：T 5 年頃の共栄座、その焼失後の空知劇場のことなど。「新上砂川町史」(S 63) 477-478：上記の内容に加え、S 3 年に開設された互楽館のことなど。
由仁町	資料なし
長沼町	「長沼町九十年史」(S 52)848：S 5～8 年、札幌演劇同盟の倉光賢治に指導を受けた青年たちの演劇活動がさかんだったこと。
月形町	資料なし
浦臼町	資料なし
新十津川町	「新十津川百年史」(H 3) 1200-1201：大正末期にはじめてできた橋本劇場などで、活動写真や芝居を月に数回おこなっていたことなど。
妹背牛町	資料なし
秩父別町	「秩父別町史」(S 62)1642-1645：明治末に筑紫座が開設され、41 年頃から農閑期や冬期を利用して、香川県人の指導により、住民による歌舞伎が上演されたこと。筑紫座焼失後、歌舞伎にかわり有志による壮士劇団の人気が出てきて、秩父座で上演されたことなど。
雨竜町	「雨竜町百年史」(H 2) 390-393：雨竜神社の例祭において、芝居興行がたびたびおこなわれていたこと。M 45 年 6 月の祭典では市川延之助一座の歌舞伎興行が好評であったことなど。
北竜町	資料なし
沼田町	「沼田町史」(S 45) 613：昭和地区の炭坑の人々の演劇サークルの質が高かったこと(詳細時期不明)。「新編 沼田町史」(S 57) 258-259：東予部落の青年たちによる素人芝居(東予青年劇団)の質が高く、出し物も豊富であり、周囲の部落からも見物人がおしかけたことなど(詳細時期不明 沼田町郷土資料館に保存)。914-915：前記と同じ東予青年劇団の件。S 8 年に多志度神社の祭典余興に招かれたことなど。
幌加内町	資料なし
栗山町	「栗山町史 第一巻」(H 元) 343-344：M 30 年頃、栗山四区角田通りに最初の芝居小屋ができ、地方巡業の旅役者や地元の青年の興行がおこなわれたことなど。M 42 年に新市街に大福座が開設され、芝居、映画、連鎖劇、浪曲などの興行がおこなわれたこと。522：大正時代にひきつがれた前記大福座のその後。さらに栗山館も開設され、寄席がおこなわれたこと。822：S 4 年に六三四館が建てられ、浪花節や芝居がおこなわれたこと。